

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日. Content includes 0193600111, 特定非営利活動法人ほのぼの, グループホームほのぼの, 白老郡白老町川沿1丁目553番9, 令和5年10月31日, 令和5年12月8日.

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, URL address: https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0193600111-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Content includes 特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット, 札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401, 令和5年11月15日.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は自然豊かな場所に位置している。ケアハウス、介護付き有料老人ホームなどの協力事業所も白老町内に位置している。4月より協力病院の変更があったが変更後も協力病院との連携が充実していることから入居者様や家族様には安心して頂いている。定期的に開催される運営推進会議において白老町・町内会・家族様・有識者の各皆様のご意見を頂き繁栄に繋げている。常日頃より家族様との交流を大切にし年に一度であるが「家族会」を開催し入居者様、家族様に楽しんで頂いている。又、当施設のケア理念である「ひとりひとりに合ったその人らしい当たり前の生活が続けたいける」を職員一同心掛け支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は白老町の中心部に在り、周辺には公営住宅やコンビニ、スーパーなど点在し、高速道路白老ICにも近く交通や買い物の利便性が良い住宅街に位置している。平屋造りの建物は吹き抜けで梁天井が立体感を生み出し、明かり窓から差し込む日差しは柔らかく、ゆったりと開放的な空間となっている。開設からの理念を軸に、その人らしい当たり前の生活を目指した環境作りに取り組み、コロナ禍で外部との接触が困難な時も、地元住民から食材の差し入れや畑作業のボランティアの支援を得るなど地域社会との関わりを大切に継続している。感染症五類移行後は、町内会も祭りを開催し子供神輿が練り歩き利用者も楽しみ、運営推進会議も対面開催となり、構成委員が揃い活発な意見交換が成され、面会も感染症対策を講じながら居室対応となるなど、少しずつ平常に戻りつつある。7月には家族会を開催し、ジンギスカンを味わいながら、フライパン三味線、合唱、アイス早食い大会などの企画に職員、利用者が参加披露し、久しぶりの家族との交流の場が盛り上がり距離感を縮めている。内部研修の定期開催で職員同士が専門知識を高め合いながら介護に臨み、季節行事や誕生会では一人ひとりが主役になれるような刺激や楽しみを加えたレクリエーションを用意し、職員の笑顔と親身なサポートの下、残存能力を生かした尊厳ある生活を推進している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation criteria and results for various service aspects.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念・ケア理念は玄関ホールや事務所、各スタッフルームなど常に目に付きやすい所に掲げて理念の共有・実践につなげている	利用者の尊厳を念頭に置いた基本理念とケア理念はパンフレットに明示し、事業所内にも掲示して職員の意識を高めている。新人研修や毎月のユニット会議で理念の重要性を伝え、共有し実践に生かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍で町内行事や推進会議など中止されていましたが7月頃より交流を再開している	感染症五類移行により町内会の祭りが開催し、事業所にも神輿が立ち寄り久しぶりに子供達との触れ合いを楽しんでいる。回覧版で地元の情報を把握し、資源回収に協力し介護相談も受けるなど、地域の役割を担っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的に関催されている「認知症の人の家族の集い」などに参加し地域やご家族の方の相談にのっている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍により推進会議開催は中止されていましたが7月より開催し参加者皆様と意見交換を行いそれぞれの参考意見をサービス向上に活かしている	今年度7月の会議から通常開催となり、構成委員が揃い意見や情報の交換が活発に行われている。事業所の活動や利用者状況、事故・ヒヤリハットなど、資料や写真を用いて報告し、質疑応答の結果は運営やケアに反映させている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは日頃から事業所の実情を伝え、分からないことは相談し意見や指導を頂いている	管理者は町保健福祉課や地域包括の担当者とは各々の課題について相談し情報交換を行い指導を仰いでおり、コロナ禍での面会方法など問い合わせで助言を得ている。介護認定更新時や生活保護課担当の訪問時は情報を提供し、利用者の安心な暮らしにつなげている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な委員会や研修を開催し、身体拘束廃止に努めているが、やむを得ず制限しなければならぬ場合は方法の検討を行っている	身体拘束適正化に関する指針とマニュアルを整備し、委員会及び研修会を定期開催している。拘束の弊害について学び周知徹底を図っているが、緊急やむを得ず拘束を行う場合は、家族の同意の基に、委員会を中心に各関係者が集い危険を伴うリスクについて検討し、方法、場所、時間帯、期間等の経過を詳細に記録し、廃止や改善に向けて取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な委員会や研修を開催し、職員同志でも注意を払い防止に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護制度を利用されている入居者が数名おりスムーズに活用できるよう支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定時の際は、口頭や文章にて説明を行い理解、納得を図っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には来訪時や電話等で意見や要望を聞き取り、ご利用者とは生活の中から聞き取り、運営に反映している	担当職員のメッセージや写真満載の「ちょこっと便り」を個別に作成し家族に毎月送付している。この7月には家族会を開催し、面会も居室対応となり、利用者、家族双方の安心感につなげ、意見、要望を引き出す場面作りに取り組み、出来る限りの対応を心掛けている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の各ユニット会議で意見や希望、提案などを聞く機会を設け反映させている	理事長は毎日訪問し事業所の現況を共有しており、管理者、職員の意見をいつでも聞ける体制を整えている。管理者は職員、利用者双方のために、ユニット会議や都度の個人面談で要望、提案の聞き取りに務めている。勤務体制や研修の充実を図り、意欲を持って働ける環境を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の特徴と能力を活かし働きやすい職場環境作りに努めている。勤務状況や労働時間などの相談に応じている。向上心を持って働けるように定期的な研修を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の特徴や能力を活かし定期的な研修(内部)に参加し働きながらトレーニングしていくことを進めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流はコロナ禍でほとんど活動されていなかったが活動開始を図りサービスの質の向上に取り組みたい		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居予定時、本人との面会でアセスメントを行い不安に思っていることや要望等を聞き取り、不安なく入居できるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族等が困っていることや、不安なこと、要望などに耳を傾け説明を行い関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の必要としている支援を見極め、他のサービス利用の検討も行っている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同作業を行ったり、相談ごとやお願いごと等を投げかけ関係性を築いている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設行事の参加、面会時や電話で現状の説明を行い、ご家族からの意見や要望を聞き共にご本人を支えていく関係性を築いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の友人や入信している宗教関係者との面会はコロナ禍で中止されていたが短時間で再開している	現在は居室での面会が可能になり、家族、知人等の馴染みの方が気兼ねなく訪問出来るように配慮している。家族と墓参りや葬儀に参列しており、訪問理美容も再開している。事業所前が通学路となる子供達とは、いつも笑顔で挨拶を交わしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の交流はあり居室を出入りされている。日に2回のお茶時間やレクでの体操など交流機会を多く持っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も手紙や電話を頂き思い出話をしたり相談に応じる事もある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者本人の希望していることや意向の把握に努め、意思に添えるよう検討している	会話や筆記が可能な利用者が多く、七夕の短冊や絵馬に書いた言葉や日常の何気ない会話や表情、仕草などつぶさに観察し、家族の情報も参考に、誕生日の献立やプレゼントに生かすなど、思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各入居者のモニタリング、利用サービスの記録を踏まえて、入居後も定期的にサービス利用の経過等に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各利用者のその日の体調、精神状況を把握し、無理なく生活行動が行えるように支援している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各利用者の発する言葉、毎月のミーティング、家族、医療機関など連携を持ち介護サービス計画に活かしている	3か月ごとに職員全員から意見等を集め、利用者一人ひとりの課題やケアの在り方について、担当職員、介護支援専門員と共に話し合い、本人、家族の意向を反映した介護計画を作成している。変化の少ない利用者は半年に1回見直され、状況変化時は随時見直しをかけている。個人記録も詳細に記載している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の業務日誌や個別記録、毎月のミーティングなど職員間で情報を共有し実践や介護サービス計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者やご家族の状況においては、日々のニーズに対して柔軟な支援や利用可能なサービスに取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会行事参加や他施設祭り等の参加はコロナ禍で活動は休止されていたが再開となり楽しむことができるよう支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	4月より主治医変更となり各家族様の承諾を得ている。眼科・歯科・皮膚科等適切な医療の支援を行っている	協力医療機関が4月から白老町立国民健康保険病院に変更となり、家族の同意を得ている。月1回の往診と月2回看護師の訪問で、利用者の健康管理に努めている。専門医への外来受診は家族と職員で対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師の訪問があり、情報を共有し、気付きや変化など連絡相談し適切な処置を受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院関係者との連絡を取り合い、情報交換や相談を行っている。近隣の医療機関との関係づくりに努めている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃から主治医との連携を持ち情報から本人、ご家族との話し合いを行い事業所との方針を共有し支援に取り組んでいる	地域の医療体制に鑑み、看取りまでの支援は難しいことを契約時に説明し同意を得ている。最終的に家族、職員は医師の判断を伺い、事業所での生活が継続できるボーダーラインを定め、次の生活場所へスムーズに移行できるように、医療機関や介護施設等との連携を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な研修を行い急変時対応等の実践力を身に付けるよう努めている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な火災避難訓練を実施し、地震や水害時等の助言も受けている。又、推進会議などでも地域の方々にも相談し協力体制を築いている	消防署及び防火設備会社の協力の下に、年2回の昼・夜想定火災避難訓練を利用者参加で実施し、次回訓練時の参考となる指導を受けている。地域住民の高齢化に伴い協力参加は厳しい状況にある。備蓄品の確保、業務継続計画書を整備している。	地震想定避難訓練に加えて入浴時や排泄支援時などの様々な場面を想定した避難訓練の実施を期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各利用者の人格やプライバシーに配慮した声掛けや対応に努めている	理念の一節である「その人らしいあたり前の生活」をサービスの根幹と考えて、職員は誇りや人格を尊重する言葉かけや対応に務めている。呼称は「さん」付けで、個人情報の管理も注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活での会話や態度から本人の思いや希望を汲み取るように努め自己決定できるように働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務や職員都合を優先せず一人ひとりのペースを大切に日々希望にそった支援ができるように心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの整容・整髪に心掛けている 訪問美容師・理容師による散髪の支援を行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設内で育てた野菜を採ったり食後の後片付けなどを一緒にやっている	利用者の嗜好や嚥下状態に合わせ、畑の野菜や差し入れの食材を工夫し、季節を感じさせる献立を作成している。行事や誕生日には、出前も活用して、ちらし寿司、刺身、天ぷら、赤飯など好物を取り揃えて喜ばれている。利用者は得意分野で力量を発揮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は記録して一日の摂取量を確認している。食事量は一人ひとりに合わせて提供している。苦手な物や好物を本人に確認し提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や毎食後に個々の能力に合わせて口腔ケアを行い口腔状態を確認して再度、職員が手直しを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者の排泄パターンを記録し定期的に声掛け、誘導を行いトイレでの排泄に努めている	職員は快適さを重視し、時間誘導や声掛けを行いトイレ排泄を基本としている。立位保持が困難な方でも居室でポータブルトイレを使用するなど、できるだけトイレで排泄できるよう支援している。衛生用品は状態に応じて検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各自の排便日時を記録し、腹部マッサージ、排便を促す飲食物の提供、服薬調整など個々に合わせた便秘予防対策に取り組んでいる		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	大まかな入浴日は予定されているが、利用者個々の体調やタイミングに合わせた入浴支援をしている	入浴は週2回を目安に利用者の体調に合わせて、シャワー浴、足浴も利用者の要望や状況を踏まえて支援している。湯加減や入浴剤の使用は希望に合わせて、ヒートショックに配慮しながら、ゆっくりと湯船に浸かり寛ぎの時間となるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣に合わせて、昼寝時間や休息を行い夜間帯は不安なく就寝できるよう夜勤者が支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の医療記録綴りの中に服薬情報記録が綴られている。服薬の目的や副作用など各自が理解して服薬の支援に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者の状況を見て役割分担を決め日課としてやっている。年間行事やDVDでの音楽鑑賞・散歩など楽しみや気分転換の支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍でご利用者が希望する外出支援はできなかったが桜見物や紅葉見物はドライブを兼ねて外出支援をしている。	感染防止対策を講じながら、東屋での外気浴、畑作業、周辺の散歩、花見や紅葉のドライブで気分転換を図り、5類移行後は町内祭りで子供神輿見学や家族の協力を得て、墓参り、葬儀、法事など、久しぶりに交流の場に参加でき、意欲や自立を保つ機会として生かされている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者がお金を所持していることはなく事務所金庫で預かり希望に副って買い物も代行している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自らが電話をすることはほとんどないが家族からの電話の取次ぎは行っている。友人や家族からの手紙のやり取りの支援も行っている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	当施設は平屋で天井も高く大きなベランダからは自然を感じることができる。ホール内に季節ごとの展示を行いそれぞれの季節を感じて頂けるよう支援している。ホールや居室の温度、湿度管理を行い心地良く過ごせるよう工夫をしている	リビングは吹き抜けで、明かり窓から差し込む日差しは柔らかく、広くゆったりとして開放感がある。キッチン是对面敷で会話が弾み、テーブルやソファの配置も利用者が其々に寛げるよう配慮している。壁には利用者との合作品である季節の飾りが施され、温湿度の管理も行き届き、快適さを提供し安らげる空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆で集える場所以外、少し離れた所にソファや椅子を置き、気の合った利用者同士や一人で過ごせる場所作りの工夫を行っている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物や大切にしている物などをご家族と相談の上、居室に配置して本人が居心地よく過ごせるように工夫をしている	各居室にはクローゼットが設置されている。ベッド、化粧ケース、椅子、テレビ、鏡台など、極力馴染みの品を持ち込んで頂き、家具の配置は危険のない動線にして安全に配慮している。家族写真、読書本、カレンダー、時計など思い思いに飾り付けを工夫し、居心地よい居室を作り上げている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	スタッフルームからは、ほぼ全居室が確認できる位置にあり、各利用者の動線も確認できる。各利用者の状況を見極め出来るだけ自立して生活が送れるよう工夫をしている		